

ICTサービス安心・安全研究会

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース（第5回）

1 日時 平成29年6月12日（月）16:00～18:00

2 場所 総務省 第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

○構成員

中村主査、曾我部構成員、上沼構成員、尾上構成員、宇津木構成員、尾花構成員、岸原構成員、森構成員（欠席：浅井構成員）

○オブザーバー

株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、アップルジャパン合同会社、（一社）全国携帯電話販売代理店協会、（一社）テレコムサービス協会、（一社）電気通信事業者協会、（一財）マルチメディア振興センター、内閣府、文部科学省

4 議事

（1）開会

（2）議題

① 「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」を受けた取組について

② 自由討議

（3）閉会

5 議事要旨

◎議題

① 「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関する論点とその解決に向けた方向性」を受けた取組について

- ・（一社）電気通信事業者協会の松井氏から資料5-1「フィルタリングサービスの普及に向けた事業者（TCA）の取組み」について説明
- ・（一社）テレコムサービス協会 MVNO 委員会の木村氏から資料5-2「MVNOにおけるフィルタリングなどの動向」について説明
- ・（一社）全国携帯電話販売代理店協会の治良氏から資料5-3「あんしんショップ認定制度の概要と青少年保護への取組」について説明
- ・（一社）安心ネットづくり促進協議会の尾上氏から資料5-4「青少年ネット環境整備タスクフォース関連取組（経過報告）」について説明
- ・総務省から資料5-5「青少年インターネット環境整備法のMVNOに対する適用等についての周知等」について説明

② 自由討議

【森構成員】 さまざまなところでいろんな取り組みをしていただいているので、当初の期待どおりに進んでいると思うんですけども、やはりPTAが全面的に頑張っていた一方、学校とか、教育委員会とかの参加が非常に少ないと思います。

今回も通して伺っていると、これはと思ったのが全携協さんの資料5-3ですけども、10ページ目に、これまでの連携、これもPTAとの連携ではあるんですけども、純粋にPTAじゃないのが、この2月27日の愛知県高等学校校長会で合同プレゼンみたいなのがありまして、これはもしかしたら学校なり教育委員会なりの参加なのかなと思っています。ですので、やはり全体的な課題として、PTAだけじゃなくて、学校、教育委員会の参加が強く期待されていると思いますし、何とか関心を持っていただくべく、この資料の冒頭で何とか高校が、後方支援ということをおっしゃっていましたが、その前、9枚目で、約3万の小・中学校、約7,000の高等学校においてキャラバン活動を認知いただくための後方支援というようなことをおっしゃっていましたが、やはり学校に積極的に入ってきていただくということが今でも重要な課題なのではないかなと思います。

【中村主査】 私も、それは非常に重要だと思っておりまして、学校や教育現場、あるいは教育委員会サイドは、2020年には全ての子供たちがデジタルの環境で勉強するという政府の方針に従って、学校教育の情報化というのが急速に進められようとしていて、リテラシー教育どうするんだとか、安全どうするんだということが気にはなっているんですが、この子供たちの安全を確保する、あるいはフィルタリングという運動と学校教育の情報化というのは、これまでちょっと別々に進められてきた面がありますので、そろそろそれらの運動といいますか、取り組みと連携を深めていって一体としてやっていくという必要が出てきているんじゃないかなと思います。ですから、そのあたりのこちらからの呼びかけもあるでしょうし、向こうの懸念事項をこちらも聞きに行く、そういった工夫もこれまで以上に重要になってきているんじゃないかなと思いますので、これは今後の我々にとっての課題でもあると認識をします。

【尾花構成員】 関連して、学校教育という面から。皆さんもご承知のとおり、つい先日、ランサムウェアの作成容疑で中学3年の男子生徒が逮捕されるというショッキングな事件がありました。少年は「力試しにつくってみたらできちゃった」と。これから、プログラミング教育も学校で行われるようになりますので、「フィルタリングをかけていれば安心」と啓発するだけの時代はもう終わったと考えなければなりません。児童・生徒の技術が向上すればするほど、アプリ、ソフト、ツールを自作できる子が増えますから、プログラミング教育と同時に規範意識を育み、よいことと悪いことをしっかり区別する心の教育みたいな部分をしっかりとやっていくことは不可欠です。ここ数年、ウイルス作成や不正アクセス等

による中・高校生の逮捕、書類送検の件数が増えているので、現状のままプログラミング教育だけが追加される形でスタートしたらどうなるだろうという若干の不安があります。

もちろん、学校での指導はきちんと行われると思いますが、情報活用に関しては現場が追いつかない状態であるように感じます。青少年の安全なインターネット利用に関する教育は、こういったことをこれくらいの回数行いましょう、というだけで丸投げするのではなく、こういうカリキュラムでこんなふうに指導しましょう！という具体的な指導案みたいなものが必要になってくるのではないのでしょうか。

もう1つは、ご家庭でのフィルタリングに関する認識の低さです。青少年インターネット環境整備法は2009年の4月に施行していますので、今年で8年目、そのとき生まれた子供はもう小学生になっています。フィルタリングをはじめとする青少年のインターネット安全利用に関することを、周知する取り組みが当時から徹底してなされていれば、小学生以下のお子さんを持つ保護者は、子供が扱う機器にフィルタリングをかけるのが当たり前という感覚になっているはずですが、残念ながら、全携協さんやMVNOさんのお話にあったように、ちゃんと説明をしないと保護者に理解してもらえないため、説明のワークがかかって大変という現状です。現役の小・中・高校生と保護者もですが、未就学児童を持つ保護者、あるいは妊産婦さんとそのご家族などへのしっかりした教育、啓発が重要になってくるのではないのでしょうか。実際、安心協で乳幼児の保護者向けに8ページ判のリーフレットを作りましたところ、大変多くのご要望が寄せられています。ただ、全国各地の乳幼児の保護者向け、あるいは幼稚園、保育園、こども園向けのセミナーを！というご希望があっても、ご予算の確保が厳しく、東京から講師を呼ぶための交通費も全額用意できないという生の声が聞こえてきています。リーフレット配布だけでは不安なほどせっぱ詰まっており、教えに来てほしいという心情がわかるだけに、地域の講師の要請が急務と痛感しています。

このあたりは、e-ネットキャラバンや全携協さんの講師の方たちのように、地域にいらっしゃる方々と連携していく方法を考えなければいけないのですが、保護者の心情や家庭環境なども複雑に絡んでくるので、小・中・高向けのようにフィルタリングに関する指導法を教えれば済む話ではありません。国で何かしらの予算をとっていただき、地域で活動できる講師を養成するためのプロジェクトができるようになれば、安心協の資料に記載されている内容がもっと広く伝わっていくはずだと思います。

【上沼構成員】 上沼です。いろいろご報告、ありがとうございました。特にMVNOに関して、今回、17条の適用があるということがきちんと発表していただいたのは大変ありがたいことかなと思っております。というのは、インターネット環境がスマートフォン時代になって非常に複雑になっていて、たくさんの事業者が関係してくるという状況にある中で、ユーザーとしては、何を使ったらいいのかということ自分で判断するということが非常に難しい状況になっています。そのときに、少なくとも、事業者の側で適用関係が明確ではないということだと、ユーザーが分かるわけがないということになってしまいますので、

そういう意味で非常にありがたいことと思っています。

皆さんご存じのとおり、環境整備法の改正案が出ておりました、その中では、現行法にはない他のさまざまな関係事業者についての義務なども規定されております。そういう状況で、どうすればユーザーがわかりやすいか、ということのをこれからも検討していく必要があるのかなと思っております。特に、状況を認識していない保護者の判断に全て任すというようなスキームは、ほんとうに難しいかなと思っていましたので、尾花さんのご意見にもありましたが、保護者をバックアップする体制と、あと、学校、その他、全携協さんのような取り組みというのをぜひとも有機的にやっていただければなと思います。

あと、個人的に、全携協さんは、こんなにいろいろな取組をされているのは本当に大変だろうなと思ったので、ありがとうございますと申し上げておきます。

【宇津木構成員】 宇津木でございます。いろいろな方のお話を伺いできました。実は昨日、私は小学校3年生、4年生にe-ネットキャラバンの授業をしてまいりました。3年生、4年生向けというのは新しく始めて、今までは5・6年生向けからのプログラムのみだったんですが、e-ネットキャラバンも需要があり、3・4年生向けのプログラムを新しく作りまして、やってみたところ、やっぱり1学年違うだけで全然反応や理解力が違うということをもって実感をいたしました。

ゲームの話をしたら、頭の中がゲームの楽しさ一色になってしまったりとか、なかなかフィルタリングの大切さとか、危険なことを伝えるのがさらに話術、テクニックが要るなというのを痛感いたしました。宇津木調べではありますが、昨日、3年生、4年生にフィルタリングという名前を知っているかと聞きましたら、知っている子が3人、手を挙げました。ちなみに、生徒数は六十何人以上いました。その中でたった3人でした。保護者の方がいらっしゃったので、保護者向けの講座の時間はなかったんですけど、終わってからミニ座談会という形でお話しをしましたら、昨日いらっしゃった保護者、12人は、全員フィルタリングの存在をご存じなかったです。フィルタリングの存在をご存じなかったし、「すみません」とスマホを持ってきて、「先生、どこにボタンあるんですか」とおっしゃった1人、おばあちゃまがいらっしゃいました。私としてはほんとうにがくつとしてしまって、もうできるとなら、今から1時間お時間いただけないですかと言いたかったんですけど、そういうわけにもいなくて。

3・4年生、低学年にやるというのはすごく大事なことだと思います。ただ、3・4年生に理解をしてもらおうというのは非常に難しいこと。ベースとして日々教えることはすごく大事だと思うんですけども、講座をやって一発で理解ができる理解力がまだない部分もあるので、ほんとうに日々の生活の中で保護者が刷り込んでいくしかないと思うんですね。やっぱり本日ほかの先生方おっしゃっているように、保護者の方へのまずは周知といいますか、保護者の方の教育という言い方はちょっとおこがましいかもしれませんが、その必要性、大切さを実感いたしました。携帯屋さんに行くと土・日は入っているので、で

できれば平日の昼間、平日の早い時間に行って聞いてきてくださいと、そこまでしか私は言えなかったんですけども、これからも全携協さんたちとタックを組んで、いろいろ保護者の方たちにも展開していければと思っています。

【岸原構成員】 TCAさんかキャリアさんにお伺いします。11ページで、今回、「高校生プラス」ということで利用者の選択肢が増えたということは非常にいいかと思います。SNSの利用可否状況をリストを作成してユーザーに説明されるという点についてお伺いします、今年に入って、ツイッターの類似サービスとしてマストドンというのも開始をされています。フィルタリングで対応するのであればインスタンスごとに対応しなければいけないかと思いますが、日々すごく増殖しているような状況で、それを全てここに記載することが可能なかどうなのかという点に関してです。日本で普及してまだ3カ月ぐらいで、まだ対応策が検討されていないのかもしれませんが、現状、対策として考えていることをお伺いできればと思います。よろしくお祈いします。

【株式会社NTTドコモ（原田氏）】 ドコモの原田と申します。絶えずいろんなサービスが出てくると思います。キャリアだけではこういった情報を把握して判断していくのは難しいため、安心協さん、EMAさん、あるいは事件があれば警察のほうから情報を頂きながら、対応していく必要があります。関係団体にご協力いただきながら、子供たちが使うサービスに関する情報の収集を継続する必要があると考えています。

【岸原構成員】 ツイッター等の、大きな企業だと運営方針は、そんなに変わらないと思いますが、マストドンのような分散型サービスになってくると、個人が運営することも多くなるため、当初問題なかったとしても、突然出会い系サイトになったりとか、あるいは児童ポルノのサイトになったりというようなことがこれから起きてくるかなと思います。フィルタリングというのはすごく有効な仕組みではあるんですけど、どうしてもフィルタリングラグとでもいうようなタイムラグが発生してしまいます。そういった状況に対応するために、EMAからキャリアさんのほうにモニタリングシステムとして、フィルタリング対象以外のサイトをモニタリングする仕組み等を提案させていただいておりますので、是非そういった対策というものもご検討いただければと思っております。よろしくお祈いします。

【曾我部構成員】 曾我部でございます。今のお話とも関連するんですけども、今日、いろいろな方からご説明いただきまして、1年近く前に取りまとめたものから非常に進捗があつて、さまざまな取り組みをしていただいているということがよくわかりましたが、ただ、従前、対策としては、啓発とフィルタリングという大きな2つで分けて考えるとすると、今日の話は大部分啓発に係るお話だったかなと思ひまして、啓発に関しては非常に取り組みが進んでいるということがよくわかったのですが、フィルタリングに関しては、先ほども

ご質問させていただきましたが、端末の機能制限については検討中であるとかいったところで、実現しているのは「高校生プラス」の導入とか、あと、名称統一とか、幾つかの点は実現されているということではあったんですが、昨年の取りまとめでは、かなり多岐にわたって、フィルタリングに関連した提案というか、方向性が示されておりますので、今後こういう検討の、検証の場があるのかよくわかりませんが、いろいろ難しい問題がおりなのかもしれません、このあたりのことも進めていただければと思います。

とりわけ今、岸原さんのご発言にもあったとおり、フィルタリングに関して、特にSNSとの関係で、フィルタリング対象の考え方を改めるということだった前提には、フィルタリング、あるいは啓発だけに頼らない、もう少し多層的な仕組みというものも視野に入れるんだということもあったかと思っておりますので、今の岸原さんのご発言のような別の角度からのご検討というのもぜひお願いしたいなと思っております。

【尾花構成員】 1つ追加です。TCAさんの資料にあるブロック対象リストで、YouTubeに関しては、小学生、中学生が現状バツになっています。これは、私も承知しているのですが、5月末からYouTube Kidsが利用可能になり、このアプリを使えば、小さい子でも見ていい動画とか、教育用の動画など、安全なコンテンツを整理して閲覧できるようになっています。YouTubeはバツでも、YouTube Kidsはマルなのか、どちらも現状はバツなのか、このあたりどんなふうに対応されているのでしょうか。YouTube Kidsはアプリなので、アプリのフィルタリングはこのブロック対象とは異なるのであればそれでもいいので、TCAのご担当の方、もしご存知でしたらご説明していただけると大変ありがたいですが。

【ソフトバンク株式会社（佐治氏）】 そこまでの情報を把握し切れてないところがございますので、調べてご回答させていただければと思います。

【中村主査】 今日はさまざまな皆さんの取り組みを改めてアップデートしていただきまして、TCAさんはじめとする進捗状況をいただきましたし、テレサ協と安心協が連携するとか、全携協さんとFMMCさんが連携をするといった、横の連携の展開もご報告をいただいたなと思っておりますが、こうした事柄は、曾我部さんおっしゃったように、引き続きちゃんとフォローアップをして議論を続けたいなと思っております。その中でも、先ほど来いろいろと指摘をされているまだまだ課題があるなど。学校教育への対策とか、低年齢の対策、あるいは保護者への対策という話も出ましたし、岸原さんがおっしゃった、マストドンどうするんだというの、これは全く新しい問題を提起するサービスがあらわれてきているかもしれないなということで、私もちょっとどきっとしました。いろいろと新しい課題も、これから出てくるだろうなということでございます。

今日、皆さんからご報告いただいた内容は、それぞれ実施主体の皆さんの側で、今日の委員のさまざまな指摘も踏まえて引き続き積極的に取り組んでいただければと思いますが、

こうした進捗状況は必要に応じて、このタスクフォースで改めて場を設けていただいてフォローアップをしていきたいと思っておりますので、委員の皆さんは引き続きよろしくお願いをいたします。